

注目ポイント！

- 瀬戸内海の島ならではの豊かな資源を活かした個人型観光の推進。
- 小豆島の産業を活かした食の分教場&まち歩き事業の取り組み。

個人型旅行への対応による個人客の増加！

フェリーによる自家用車輸送台数 約307,000台 (平成元年) → 約377,000! (平成17年)



美しい原高原からの景色

コラム

小豆島観光協会では、小豆島ならではの個性的な魅力創出を図る「小豆島の産業を活かした食の分教場&まち歩き事業」を推進するとともに、自分の言葉、自分の知識で旅行者を迎える楽迎員の養成を図り、滞在時間の増加及び宿泊客獲得に取り組んでいる。



小豆島観光協会
事務局長
立花 律子氏

これまでの経緯

- | | |
|--------------|---|
| 昭和62年(1987年) | 「二十四の瞳」が再映画化され、オープンセットを利用した“二十四の瞳映画村”がオープンする。
マルキン記念館、小豆島民俗資料館が開館する。
ギリシャ・ミロス島と姉妹島縁組の調印がなされる。 |
| 平成元年(1989年) | オリーブ公園がオープンする。 |
| 平成2年(1990年) | 小豆島ふるさと村がオープンする。 |
| 平成3年(1991年) | 「残石ふるさと市」を始める。 |
| 平成12年(2000年) | 瀬戸内・夢海道コンシェルジェが設立される。 |
| 平成14年(2002年) | 「小豆島・内海町オリーブ特区」に認定される。 |
| 平成15年(2003年) | 海のエコツアーが実施される。 |
| 平成16年(2004年) | 楽迎員による観光案内が開始される。 |
| 平成17年(2005年) | |

主な取り組み

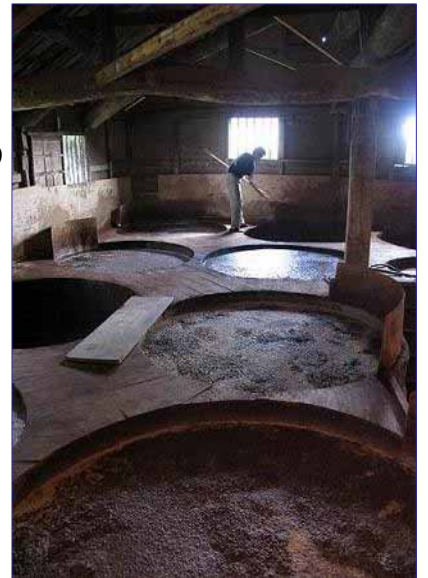
食の分教場&まち歩き事業

小豆島では醤油、佃煮、素麺、ごま油などの産業が盛んである。島の産業や観光地等に精通した楽迎員が、観光客をものづくりの現場に案内。

観光客は、まち歩きを通して、直に香りや音を体感し、職人たちの熟練の技を見、ものづくりにかける思いを聞くことができる。本物体験が観光客に新たな感動を提供。



素麺の箸分け体験



醤油蔵

瀬戸内・夢海道コンシェルジェ

小豆島の情報に詳しい観光ボランティア(コンシェルジェ)が、ホームページを通して、観光情報を発信。

訪日旅行を予定されている韓国の方々の旅をサポート。ホームページは日韓自動翻訳機能を備えており、韓国からのアクセスにも対応。



コンシェルジェ

エコツアー

個人でゆっくり旅を楽しむ観光客に、地域のインタープリターが小豆島の自然や文化、歴史を紹介するエコツアーを実施。リピーターの増加に貢献。



シーカヤック体験

大坂城残石記念公園

「大坂城残石記念公園」を拠点に、地域住民が中心となり、「残石ふるさと市」などを実施。地元特産品の販売や、小豆島の歴史・文化を活かした交流拠点を目指している。



残石ふるさと市

問い合わせ先

- 社団法人 小豆島観光協会
Tel : 0879 - 62 - 5300
- 土庄町 商工観光課
Tel : 0879 - 62 - 7004
- 小豆島町 商工観光課
Tel : 0879 - 82 - 7007

<http://www.shodoshima.or.jp/>

<http://www.town.tonosho.kagawa.jp/kanko/>

<http://www.town.shodoshima.lg.jp/index.html>